

国道トンネル 10年点検せず

国が管理する国道のトンネルで、マニュアルに基づき定期点検が約10年間、行われていなかったトンネルが少なくとも11カ所あることが、会計検査院の調査でわかった。検査院は、点検を確実に実施するよう国土交通省に求める方針だ。

昨年12月に中央自動車道笹子トンネル(山梨で起きた天井板の崩落事故を受けて、国は高速道路や市町村が管理する道路の安全対策を進めている。その中で、国自らが管理する道路での点検の不備が明らかになった形だ。国交省によると、国道のトンネルは全国に約1400カ所。国が定めたマニュアルをもとに、国交省の出先機関である各地の国道事務所が定期点検を行っている。

検査院調査 長野など11カ所

マニュアルでは、完成から1〜2年の初期点検で、目視やハンマーでたたく打音検査を実施。その結果に応じて、①2年に1回②2年に1回が原則で、状況次第で5年に1回に延長③5年に1回、という3分類的の間隔で定期点検を繰り返すことになっている。

検査院は、19の国道事務所が管理し、2011〜12年度に定期点検を実施したトンネル約180カ所について、それ以前の点検状況を調べた。長野県内5カ所、岐阜県内1カ所、兵庫県内5カ所の計11カ所は02年に点検を行って以来、約10年の間隔が空いていた。いずれもトンネル内の一部で補修工事が行われたため、点検は不要と考えたことなどが原因という。

これとは別に、トンネル内の換気扇などの付属設備も調査。定期点検を実施していなかったり、換気扇の故障が放置されたりしていたトンネルもあった。

検査院は、各国道事務所で改めて点検計画を作成するなど、国交省に管理態勢を見直すよう求める方針。(金子元希、北沢拓也)

熱中症搬送過去最多 6〜9月に5万8729人

総務省消防庁は15日、6〜9月に熱中症で救急搬送された人が集計を始めた2010年以降、最多の計5万8729人だったと発表した。これまでの最多は同年の5万6119人。死者は88人で、最

多かった同年の1771人から半減した。搬送者のうち、65歳以上のお年寄りが全体の47%を占めた。人口10万人あたりの都道府県別の搬送者数は高知が75人と最多で、和歌山の71人、熊本の68人が続いた。同庁救急企画室は「気温の高さが搬送者数に反映したが、熱中症という言葉と対処法が広く認知されるようになり、死者数は抑えられた」と分析した。